

農業技術 プリズム

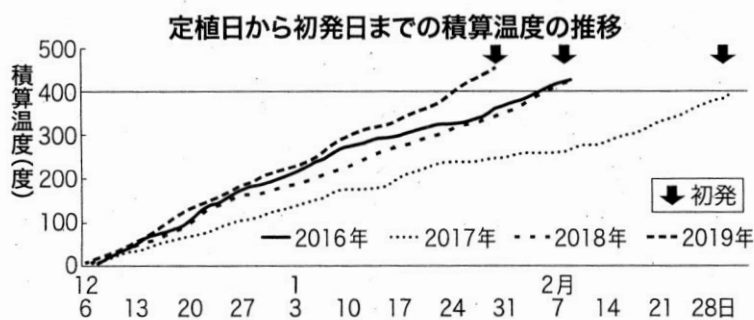
タマネギべと病は大発生すると、減収などの甚大な被害が発生します。発病初期の防除対策として、圃場（ほじょう）巡回による1次伝染株の抜き取り作業が重要です。1次伝染株の発生は、1月下旬～4月上旬に断続的に続きますが、初発時期は年によって大きく変動します。そのため発生前から圃場を巡回し、発生が遅い年は無駄な見回り作業が行われています。

そこで、抜き取り作業を効率的に開始するため、1次伝染株の初発時期と定植から初発までの気象データを解析し、気象要因から1次伝染株の初発日が推定できるかを検討しました。試験の結果、12月上旬定植の

普通タマネギのべと病1次伝染株の初発日は、定植日からの日平均気温の積算値（積算温度）が400度に達する頃に、出現することが明らかとなりました

タマネギべと病の初発予測

積算温度から推定し巡回の効率化めざす



（図）1次伝染株の初発時期を早期に推定し、巡回開始の目安とすることで、不要な圃場巡回が省略できます。

なお、この成果は中央干拓地で12月上旬に定植する普通タマネギの場合であり、他の条件（場所、定植時期など）は検証が必要です。
（長崎県農林技術開発センター 環境研究部門病害虫研究室 長 難波信行）